

No. 658(一九九七年一月一・二日合併号)から
No. 690(一九九七年二月二一日)まで

No. 658(一九九七年一月一・二日合併号)

◇巻頭言世界の労働運動とドイツ労働者のたたかい
多国籍企業と世界帝国主義再編成⑤
日本国憲法のたどった道

伊勢 太郎
坂牛 哲郎
加藤 晋介

―憲法公布五〇年と憲法状況①―
勤労者層の意識変革を運動の中で

上野 建一
横堀 正一

「行革」の本質をみすえた運動の再建を
―労働運動と政治闘争の再建を考える④―
「雇用契約法」と労働運動

上野 義昭

―ニュージーランドの規制緩和・行革⑦―
闘争団の現場で考える国鉄闘争

清野 隆

◇私の読書◇『ゴヤ』そして『海鳴りの底』(堀田善衛著)
◇読者からのおたより◇編集部だより

No. 659(年一月二五日号)

◇巻頭言◇実践的学習の緊急性
憲法改悪阻止への三つのたたかい

上野 建一
加藤 晋介

―憲法公布五〇年と憲法状況②―
ペルー―日本大使館占拠事件の背景

坂牛 哲郎

レーニン『帝国主義論』と現代の帝国主義
―多国籍企業と帝国主義再編成④―
現代の「転向」を考える ―精神の自由を取り戻すために―

若者の意識をさぐる ―資本主義と意識構造①―

◇読者からのおたより ◇編集部だより

No. 660(一九九七年二月一日号)

◇巻頭言◇歴史と個人と政党

近江谷 左馬之介

労働運動再建へのいくつかの問題提起

横堀 正一

―労働運動と政治闘争の再建を考える⑦―
帝国主義再編成と労働組合

坂牛 哲郎

―多国籍企業と帝国主義再編成③―
「少数」と言われる多数の声を生かせる社会に

稲村 守

―カストロの気概をわれわれのものに―
ドイツ労働運動の底力

月島 猫

―病欠手当削減攻撃を粉砕―
労働関係法改正でゼネストへ ―合法組織と非合法組織が共闘―

◇読者からのおたより ◇編集部だより

No.661(一九九七年二月十一日号)

◇巻頭言◇ 労働運動の現状と「中間幹部」の任務

私鉄九七春闘方針案への「私の修正案」

―会社、資本の言うなりになる春闘はまっぴらごめん―

ベアゼロ、隔年春闘、規制緩和の中で

―「ストなし」春闘に変化の芽ばえも―

「少数」と言われる多数の声を生かせる社会に

―カストロの気概をわれわれのものに―

自民党大会に九産別一共同組織が出席

「行革」挙党内閣をめざす保守勢力

現代青年と「われわれ」中高年の責任 ―若者の意識をさぐる―

◇詩 希望

◇読者からのおたより

塩屋崎 あき江

No.662(一九九七年二月二一日号)

◇巻頭言◇ ペルー大使公邸人質事件と政局

社会主義と社会民主主義

資本の教育要求と教組の課題 ―中教審「審議のまとめ」批判―

再建へスタート切れぬ被災者 ―被災労働者ユニオン「被災者労働調査」から―

DGB新綱領とドイツ労働運動

―ドイツ労働運動の底力―

人間らしい生活を問い直す ―若者の意識をさぐる③―

九七春闘と日経連の二一世紀戦略

◇読者からのおたより

◇編集部だより

月島 猫

上野 建一

No.663(一九九七年三月一日号)

◇巻頭言◇ 「行革」「規制緩和」でよみがえる『共産党宣言』

どこへ行くのか世界の経済と政治

―労働運動をめぐる情勢の特徴と課題―

原発にたよらない輝ける巻町

―巻原発住民投票からのスタート―

株価動向にみる日本経済のゆくえ④―株安、円安はさらに加速か―

社会党的精神的状态からの脱却

◇投稿◇ 「自民との絆」「与党からの出発」に失望

―社民党再生への期待は捨てる決意―

◇読者からのおたより◇編集部だより

JR採用差別事件東京地裁勝利判決獲得！「国労中央総決起集会」に集まろう
日時 三月四日(火)午後六時 場所 日比谷野外音楽堂

伊勢 太郎

藤沢 詔三

坂井 雅之

鈴木 賢二

山田 宏二

稲村 守

No.664(一九九七年三月十一日)

◇巻頭言◇ 第二臨調の手法が今日に
岩井章氏を偲ぶ

続・社会主義と社会民主主義

「行革」「規制緩和」で労働者はどうなる

—どこへ行くのか世界の経済と政治②—

労働者の生活と春闘

—毎日・毎日が、生活との闘いだ—

宇宙、地球、ヒト

—若者の意識を考える③—

読者からのおたより

『岩井章氏を偲ぶ会』にご参加を 三月十一日(火) 午後一時より場所国労会館八F

No.665(一九九七年三月二十一日)

◇巻頭言◇ 労働組合をつくり、さらには再生へ
「巨星落つ」

職場闘争の展望—岩井さんから学んだこと

北海道社民「丸ごと民主党移行」に失敗

社民党内左派党員の任務とは

規制緩和を理由に首を切られてたまるか

—兵庫県プロパンガス保安協会分会の闘い

当面する労働運動強化の重点課題

—どこへいくのか世界の経済と政治③—

読者からのおたより

No.666(一九九七年四月一日)

重要な段階を迎えた採用差別行政訴訟

—国鉄闘争の意義と前進のために①—

いま、アメリカは 上野義昭—「大競争時代」と「資本主義の未来」—

くつがえされる古代社会の常識

—社会発展史、方向転換のために②—

岩井章さんと「三池」

◇読者からのおたより

◇編集部だより

伊勢 太郎

滝野 忠

上野 建一

藤沢 詔三

木村 哲蔵

播磨 宏

稲村 守

渡部 隆一

政権研究班

藤沢 詔三

宮里 邦雄

播磨 宏

松枝 佳宏

No.667(一九九七年四月十一日号)

◇巻頭言◇「一つの時代の終わり」と「新しい時代の始まり」

二年目に入った新社会党の課題と任務

私鉄総連があぶない

―大手中央集団交渉から個別交渉への移行―

労働基準法「女子保護規定撤廃」をめぐる

―女子労働者の深夜、時間外休日労働規制は時代おくれか―

時間どろぼう、ピンハネ、首切り自由、過労死「法制化」

―労働法制の規制緩和には反対(日本労働弁護団アピール)―

変貌する「春闘」

重要な段階迎えた採用差別行政訴訟

国鉄闘争の意義と前進のために① ―全国ではじめての賃金差別訴訟

―新白砂闘争勝利集会を開催―

◇読者からのおたより ◇編集部だより

宮里 邦雄

森野 晃

伊勢 太郎
上野 建一
三木 信之介

No.668(七年四月二十一日号)

◇巻頭言◇労働運動再生への四つの課題

沖縄から米・日の「軍事同盟」を考えよう

「資本の論理」を野放しにする 「持ち株会社」解禁

―橋本「金融システム改革」の目玉①―

ペルー大使公邸占拠事件と中南米の状況―「民営化」政策のゆくえ―

国鉄闘争は労働運動再構築の核

―理論、主体、戦術、実践とは何だろう―

現代帝国主義と対決する新社会党に

―関東ブロックチューターにまなぶ―

◇読者からのおたより

◇編集部だより

伊勢 太郎
政権研究班
滝野 忠
木村 哲蔵
高原 敏朗

No.669(一九九七年五月一・十一日合併号)

◇巻頭言◇「保・保連合」に抗して護憲勢力の拡大を

橋本「六大改革」の帰結と労働運動 ―「転換期」現代の課題①―

三池炭鉱閉山と国鉄闘争

経済は外国資本、治安は中南米政府

―ペルー大使館公邸占拠事件の後にあるもの②―

金融機関の「スクラップ・アンド・ビルド」

―「持ち株会社」解禁、そしてビッグ・バン③―

「行革」、「規制緩和」の矛盾が全国化

―国鉄「分割・民営化」十年の検証―

アメリカのまねをするな

―ジョン・スウィニーの研究会―

◇読者からのおたより

◇編集部だより

編集部
滝野 忠
坂牛 哲郎

No.670(一九九七年五月二十一日号)

◇巻頭言◇ 労働側の戦略をもつ

― 九七春闘の中から―

英・労働党政権は「社民主義」ではない

「突入」後の中南米と日本

― 「有事体制」づくり加速化必至―

橋本「六大改革」と金融システム変革

― 「転換期」現代と労働運動の課題①―

藤沢 詔三
京成・反合研

「二つの目的」を念頭に成果と課題を

― 九七春闘総括にむけて―

上野 建一
滝野 忠

No.671(一九九七年六月一日号)

◇巻頭言◇ 特措法にみる「三つの異常事態」

反行革一五三日の攻防 ― 三鷹市職の「地方行革」との闘い―

編集部

「地方分権」という名の「国家改造計画」

― 背景、本質、帰結①―

上野 義昭

「護憲」、「改憲」のかき根

― 憲法状況をめぐる現段階―

政権研究班

ノアの箱舟、ギルガメッシュ叙事詩と現代

― 社会発展史、方向転換のために③―

播磨 宏

職場での「ふれあい」めざす ― 能力主義管理で失われるもの―

◇読者からのおたより◇編集部日より

No.672(七年六月十一日号)

◇巻頭言◇ 戦後憲法体制の危機と岩井さん

― 岩井さんを追悼する関西集会開催へ―

稲村 守

高級官僚の身分は保障、一般国民は血を流せ

― 行革会議「中間整理」の意味するもの―

政権研究班

「地方分権」という名の「国家改造計画」

― 背景、本質、帰結②―

上野 義昭

朝鮮情勢がよく見えないのは何故か

若林 熙

― 食い違うワシントンと東京・ソウルの思惑

播磨 宏

― 社会発展史、方向転換のために④―

◇読者からのおたより◇編集部日より

闘う労働運動に生涯をささげた岩井さん

追悼関西集会 六月二六日(木) 午後六時開場 六時三〇分開会

大阪市立北区民センター ― (JR環状線天満駅下車)

No.673(一九九七年六月二一日号)

◇巻頭言◇ 採用差別事件最終弁論を傍聴して

川端 一男

J Rは東京地裁和解勧告に従え

―六・二六中央総決起集会のご案内―

十五年の想いを一〇分で陳述

杉山 均
小松原 登美子

資料1 「国鉄改革の黒い影」

資料2 はやく制服姿を子供達に見せたい(杉山 均)

資料3 和解勧告を教宣し、組織強化に奮闘を(国労中央闘争委員会)

資料4 「和解の席」に着くことを要望(東京地裁の意見)

資料5 和解の席につくことを表明(国労コメント)

資料6 不当労働行為責任なし、和解の余地なし(J R北海道会社コメント)

資料7 J Rの不当労働行為責任は労組法により明白(中労委の理論構成)

五・二八東京地裁結審・和解提案と国鉄闘争

佐野 修吉

『戦後憲法体制の危機と岩井章さん』―岩井さんを追悼する関西集会のご案内―

橋本行革「財政方針」の問題点

政策研究班

読者からのおたより

No.674(一九九七年七月一日号)

◇巻頭言◇ 組織づくり

京成労組 大嶋 甲三

職場に労働運動を!

―新たな段階に入った国鉄闘争―

滝野 忠

五・二八東京地裁の和解勧告に対する集約意見

宮里国労弁護団長

―五・二八、公正な判決を求める中央集会

「民主基軸」から「民主、社民と協力」へ

労働運動研究班

―自治労政治方針の特徴―

◇読者からのおたより ◇編集部だより

◇お詫びとお願い ◇本号より活字を大きくしました

No.675(一九九七年七月二一日号)

◇巻頭言◇ 淳ちゃん事件と現代世相

松枝 佳宏

「規制緩和」は人間労働を機械部品化する

上野 建一

「行革・規制緩和」にキツパリ反対を

鈴木 賢二

―労働者が社会の主人公(上)―

労働基準法女子保護規定の廃止について

徳住 堅治

―日本労働弁護団幹事長声明―

リストラに抗して ―組合役員選挙に立候補しました―

今こそ現場の声を全国大会へ ―「郵政民営化」宣伝をはねのけて―

「和解勧告」をこう考える

国労・帯広闘争団

資料1 和解の席への格段の努力を

国労回答

資料2 合意形成に努力

中労委回答

眠っている古典を開いてみませんか

大西 滋

―「松山古典学習会」三つの効用―

読者からのおたより

No.676(一九九七年七月二一日号)

◇巻頭言◇ 香港返還、現代帝国主義、そして社会主義
通貨統合で進む権利破壊

—ヨーロッパは今、時代の転換点—
連合・参院選対策に青息吐息

伊勢 太郎
細井 雅夫
労働運動研究班
鈴木 賢二

行革・規制緩和攻撃と職場へのあらわれ
—「行革・規制緩和」にはキツパリ反対を

稲村 守

〃無数の岩井章が無数の三池を〃
合併・吸収で巨大化する多国籍企業

政権研究班

◇書評◇

新潟県巻町発住民投票に行きましよう

小林 義昭

—地方分権の原点を感じさせられる報告書
◇読者からのおたより◇編集部だより

No.677(一九九七年八月一日号)

◇巻頭言◇ ユニオン連合は〃沈没寸前〃
規制緩和は「第二の黒船」

伊勢 太郎
滝野 忠

—行革・規制緩和の歴史的本質(上)—
一人でも泣いている者がないように

私鉄反合理化研究会

—全国の私鉄のみなさんへ—運動方針を読んで—
労働弁護団の新しい歴史が始まった

鵜飼 良昭

—「労働相談」は運動の出発点、運動の目標—
政治と戦争を考える

上野 建一

笹山久三さんの問題提起を受け

稲村 守

—「国鉄闘争勝利をめざす京都集会」開催
資料1 国労「声明」(一九九七・六・三〇)

—政府・運輸省は指導責任を発揮せよ

連合推せん候補は五勝十一敗 —都議選結果のもう一面—

労働運動研究班

◇読者からのおたより

◇編集部だより

No.678(一九九七年八月二一日)

◇巻頭言◇ 再び淳ちゃん事件について

松枝 佳宏

—タテ社会からヨコ社会へ—

「戦争体験の風化」を考える

上野 建一

ある座談会を読む 近江谷左馬之介

—「現存社会主義」の「光」と「陰」—

国鉄闘争と『決戦』

佐野 修吉

読者からのおたより

No.679(一九九七年九月一日)

◇巻頭言◇ いなかっぺ奮闘記

―東京南部独自、物販オルグ―

三年雇用周期説と飾り者の間

―障害者就労の現場―

三井は最高のペテン師 ―閉山反対闘争総括案を作成―

近づくアメリカン・バブルの崩壊

行革対応、能力主義、春闘見直し

―労働組合大会前半の特徴―

世界最終戦争論

西土佐村とコスタリカ

―澤野義一著『非武装中立と平和保障』を薦める―

読者からのおたより

『旬刊社会通信』二〇周年記念の集い』のご案内

佐久間 誠

町田 一男

労働運動研究班

上野 建一

稲村 守

No.680(一九九七年九月一日)

◇巻頭言◇ 日本労働運動誕生から百年

―日鉄矯正会そして「国鉄闘争」

国家改造、官僚機構の有効活用が「省庁再編」の軸

―行革会議「中間整理」と討議資料―

橋本政権と保・保連合

日本共産党はどこへゆく

本場のたたかいはこれから

―「頑張れ国労・新得交流会」の報告―

森の時代Ⅱ蛇信仰からユダヤ・キリスト教へ

―社会発展史、方向転換のために(五)―

読者からのおたより

編集部だより

「社会通信二〇周年の集い」

十一月一日(土) 午後一時 場所東京・全水道会館

佐野 周二

播磨 宏

政権研究班

滝野 忠

伊勢 太郎

No.681(一九九七年九月二一日)

◇巻頭言◇ 「社会通信二〇周年」記念集会にご参加を

教育「改革」と教育労働者(上)

行革会議「中間報告」は何を意図しているのか

―続現代帝国主義論(その二)―

家永さんの信念と実践に学ぼう

公正判決を東京地裁に求める―「解決の時来る!」国労大会開く―

何が何でも勝ちたい

国鉄清算事業団をめぐる動き

国鉄闘争の現状と戦略的課題

デイズニールランドへの旅

労組にかわって老人クラブが運動

読者からのおたより

「社会通信二〇周年の集い」十一月一日(土) 午後一時 場所東京・全水道会館

関野 政幸

木村 浩三

飯島 淳

長縄 真由美

No.682(一九九七年一〇月一日)

◇巻頭言◇ 反合理化闘争の再構築

労働組合は「労働者の利益を守る」組織

―自治労第六七回定期大会開かれる!―

遠くなる自治労幹部と職場の距離

―第六七回自治労大会について―経過と感想

時宜に適したグッドなパンフ

―『許すな!憲法改悪危険な憲法議連―集団自衛権から非武装中立』―

規制緩和・行革の拡充めざす橋本改造内閣

国鉄闘争勝利のためにご参加を

―JR東日本新本社ビル抗議行動国鉄団結まつり―

労働運動再建の条件は成熟

―教育「改革」と教育労働者(下)―

京都・城陽市の市長選

―共産・自民「共闘」の背後―

読者からのおたより

『社会通信』の二〇周年記念集会

十一月一日(土) 午後一時 場所東京全水道会館

No.683(一九九七年一〇月一日)

『社会通信』の二〇周年記念集会

―明日の社会主義・労働運動を考える―

拡大する矛盾、注目される連合第五回大会への影響

―労働組合大会後半戦の特徴―

二十一世紀の一大潮流、進展するグローバル化

―続・現代帝国主義論(その二)―

秋田・京都へ支援の手を

―郵政省で不当解雇続出―

アフガン「和平」の演出を試みる日本政府

全組合の団結で「自区内処理を放棄した条件整備なき区移管」を阻止

橋本自民政治の現状とこれから

読者からのおたより 編集部だより

鈴木 賢二

政権研究班

横堀 正一

労働運動研究班

坂牛 哲郎

上野 建一

No.684(一九九七年一〇月二一日)

◇巻頭言◇ 戦後憲法体制の危機 — 大衆の中へ、大衆と共に —
みなさんの暖かいご支援を訴えます

— 市民が主人公の神戸市政の実現めざして —
新ガイドラインに抗して

— アメリカ軍事行動に組みこまれる日本 —

大衆路線の復権 — 「ポストコロナル文学」の視点が語るもの —

社民党に野党になれる気力無しか

交流し、学び、職場のたたかいを — 自治労秋季交流会の基調案(上) —

『社会通信二〇年』総目次の頒布について

読者からのおたより 編集部日より

『社会通信』の二〇周年記念集会

十一月一日(土) 午後一時から五時 場所東京全水道会館

記念講演『共産党宣言』一五〇年と社会主義の復権

第二部『社会通信』二〇年と明日の社会主義・労働運動の課題を語る

第三部交流会

No.685(一九九七年十一月一日)

創刊二〇周年に寄す

資本主義の終わりの始まりか

『社会通信』の真骨頂

価値観、歴史観、科学観

水泳の「教習書」

『紙ひとえの選択』

誕生の頃

架け橋

社会党の死滅と誕生

労働法制全面改悪に揺れる連合

— バブル崩壊、「第二の黒船」が連合を直撃(上) —

世界帝国主義再編のかなめ、多国籍企業

— 現代帝国主義論(その三) —

行革への反撃・その客観的条件

“詩” 落日

編集部日より

『社会通信』の二〇周年記念集会

日時 十一月一日(土) 午後一時から五時

場所 東京 全水道会館(JR水道橋駅東口改札を出左へ徒歩2分)

記念講演 『共産党宣言』一五〇年と社会主義の復権

第二部『社会通信』二〇年と明日の社会主義・労働運動の課題を語る

第三部 交流会

松枝 佳宏

岡崎 宏美

坂牛 哲郎

若林 熙

政権研究班

近江谷 左馬之介

佐久間 誠

藤原 了

園田 裕子

桐原 浩

松永 裕方

小林 義昭

原 野人

坂牛 哲郎

上野 建一

塩屋崎 あき江

No.686(一九九七年二月一日)

◇巻頭言◇「二〇年を一日に凝縮」、二〇周年の集いから
運動の原動力

滝野 忠
門永 三枝子

「赤」は政治反動の印

吉田 憲夫
坂牛 哲郎

巨大多国籍企業、帝国主義との闘い(二)

―続現代帝国主義、その五―

地方分権と行革、規制緩和は一体

―交流し、学び、職場のたたかいを(下)―

永江 力

「有事法制」は「懸念」では済まぬ

―米軍に舐められた北海道の三〇日間―

考える会第三回総会を開く ―秋田・大曲の須藤伸さんからメッセージ―

資料 職員のみなさんへ(平成九年九月二九日) ―職場規律で民営化阻止!?!―

札幌 F・M

生きる・独占資本への怒りをこめて

滝野 嘉津子

―変わらぬご支援・ご指導を―

読者からのおたより 『社会通信二〇年』総目次の頒布について

No.687(一九九七年二月二日)

◇巻頭言◇世界株価「暴落」と日本

伊勢 太郎

『共産党宣言』一五〇年と社会主義の復権(上)

伊藤 誠 先生(國學院大學経済学部教授)

坂牛 哲郎

巨大多国籍企業、帝国主義との闘い(二)

―続現代帝国主義 その五―

日米ガイドライン改定の先取り反対

―滋賀県・あいば野での「日米軍事演習」をやめろ!―

資料 日本の積極的立法を望む

―キャンベル米国防副次官補との一問一答―

国鉄「分割・民営化」時の労務政策が今日に

「テープが語る再就職斡旋の実態・パート①」購入のお願い

書評 富沢賢治、川口清史編(日本経済評論社)

『非営利・協同セクターの理論と現実―参加型社会システムを求めて』

読者からのおたより

編集部だより

No.688(一九九七年二月一日)

伊勢 太郎

◇巻頭言◇「株大暴落」のゆくえ
現代資本主義のグローバルイノベーションと『共産党宣言』の経済学

—『共産党宣言』一五〇年と社会主義の復権(中)—

伊藤 誠 先生(國學院大學経済学部教授)

『社会通信』二〇周年記念集会

明日の社会主義・労働運動を考える

司会あいさつ

加藤 晋介(弁護士)

原点に返り、「通信」二〇年をふりかえる

生き方決めた九〇年の選挙

社会党の動揺の中で

岡崎 ひろみ

会社から「パパラッチ」といわれる日常活動

国鉄闘争の中で

篠崎 信一

チェ・ゲバラ人気の秘密

戦略目標は「福祉国家」

坂牛 哲郎

—巨大多国籍企業、帝国主義との闘い(下)—

労働法制の規制緩和にはだんこ反対(研究者・弁護士のアピール)

読者からのおたより

No.689(一九九七年二月一日)

◇巻頭言◇せきがこわれた —拓銀、山一証券の倒産—

伊勢 太郎

『共産党宣言』の社会主義論

—記念講演『共産党宣言』一五〇年と社会主義の復権(下)—

講師 伊藤 誠 先生(國學院大學経済学部教授)

「社会通信」二〇周年記念集会

明日の社会主義・労働運動を考える

社会主義をめざす政党をつくる

今日の政治と課題

上野 建一(元衆議院議員)

「総評・社会党ブロック」の動揺の中で

「社会通信」二〇年から

滝野 忠(発行人)

現実の正確な分析から始めよ

現情勢から「通信」へ

坂牛 哲郎(元都高教委員長)

橋本首相に内憂外患こもこも

政権研究班

「民営化」という民営化攻撃—郵政民営化攻撃に抗して—

港湾労働者が二四時間スト

読者からのおたより・二〇周年

『社会通信二〇年』総目次のい頒布について

No. 690 (一九九七年二月二一日)

◇巻頭言◇永続的な国民生活の切り捨て

―「財政構造改革」と国民生活―

ピケを越えなかった男たち

―リバプール港湾労働者から何を学ぶか―

これ以上失業者ふやしてどうするねん

―京都で「規制緩和」反対集―

何が危機なのか

―国際環境京都会議の「裏」と「表」―

「人間労働」は商品ではない

―アンセンヌーLO事務局長の講演から―

私鉄における規制緩和

労働者の権利・生活破壊とともに力合わせを

―労働者組織の九八春闘方針の特徴―

ゴルフ会員が四十人に

―競争の中でくずれる団結―

読者からのおたより 編集部だより

松枝 佳宏

園田 裕子

坂牛 哲郎